

リハビリテーション科

○リハビリテーション科の概要

1. リハビリテーション科の特色

リハビリテーション医学はさまざまな病態、疾患、外傷などにより生じた機能障害を回復し、残存した障害を克服しながら人々の活動を育む医学分野です。リハビリテーション医学・医療の対象者は、小児から高齢者まですべての年齢層に広がっており、対象とする疾患や障害は、運動器障害、脳血管障害、循環器や呼吸器などの内部障害、摂食嚥下障害、小児疾患、がんなど幅広い領域に及んでいます。リハビリテーション科はさまざまな疾患や障害を対象とし、多くの診療科や専門職と関わり、協働して医療を進めていく診療科です。

2. 診療実績

2024年度リハビリ科外来：月当たり初診患者数247人；内訳1)脳・脊髄疾患等21人/月、2)神経・筋疾患等23人/月、3)骨・関節疾患等85人/月、4)呼吸器疾患等40人/月、5)小児疾患等8人/月、6)がんリハビリ等23人/月、7)廃用症候群等6人/月。月当たりリハビリ施行件数7415件；内訳1)理学療法4793件/月、2)作業療法2268件、3)言語療法355件/月。嚥下造影35件/月。

3. 診療スタッフ

篠田裕介（教授、運営責任者、診療部長、教育主任、研究主任） 運動器、がん、骨転移
倉林均（客員教授） リハビリテーション医学全般、老年医学、温泉医学
前田恭子（助教） リハビリテーション医学全般、痙縮、嚥下障害、装具
新野捺美（助教） リハビリテーション医学全般、緩和医療
東山大士（助教） リハビリテーション医学全般、救急医療
間嶋満（名誉教授） リハビリテーション医学全般、脳卒中
山内洋子（予防医学センター兼担准教授） 神経疾患

4. プログラムの特徴

埼玉医科大学病院は特定機能病院であり、急性期治療を担当する病院です。当科では急性期のリハビリテーション治療を担当しています。各科に入院中に行う急性期リハビリテーション医療からリハビリテーション専門病院に転院しておこなう回復期および在宅などで行う維持期のリハビリテーション医療を一連として捉える考え方で診療しています。院内のほとんど全ての科から依頼を受けて入院中の患者さんのリハビリテーション治療を担当しています。各疾患に応じた早期からのリハビリテーション治療を安全に行うために必要なリハビリテーション診断（評価）と処方ができるように研修を進めています。

リハビリテーション科専門医（専攻医）の育成を積極的に進めるため、2020年4月から、診療・教育・研究体制を見直しました。2021年度は2人、2022年度は1人、2023年度は3人、2024年度は2人が埼玉医大リハビリテーション科専門研修プログラムで研修を開始しています。連携医療機関は14施設（埼玉県8、東京都5、神奈川県1）あり、幅広い専攻医研修を行うことができます。埼玉医科大学の川越市総合医療センター、日高市国際医療センター、かわごえクリニックと合同研究会を開催し、診療・教育・研究を補い合っています。

一般目標（GIO）

リハビリテーション医学が機能障害を回復し、残存した障害を克服しながら人々の活動を育む医学分野であることを理解する。

行動目標（SBOs）

- 初歩的なリハビリテーション診断と処方を行うことができる。
- 急性期、回復期、維持期のリハビリテーション医療の役割について患者に説明できる。
- 急性期病院である大学病院でのリハビリテーション治療の概略を説明できる。
- リハビリテーション治療の適応判定、運動療法の禁忌を説明できる。

研修方略 (LS)

- 外来患者（入院または通院で他科からリハビリテーション依頼を受けた患者）を受け持つ
- リハビリテーション診察を行い、生きることの全体像を把握する。
 - 健康状態（病歴、画像所見等）
 - 生活機能（心身機能、身体構造、活動、参加）
 - 背景因子（環境因子、個人因子）
- 生命予後、機能予後を予測し、リハビリテーション治療の目標を設定する。
- 必要なリハビリテーション治療を検討し、処方を行う。
- セラピストによるリハビリテーション評価、治療の方法を学ぶ
- 嚥下造影検査を行う
- 義肢装具外来に参加する
- ボツリヌス治療による痙縮治療を経験する
- がんのリハビリテーションカンファ、緩和医療科カンファでチーム医療としてのリハビリテーション治療を学ぶ

EV(評価方法)

- 研修中の評価
上級医より指導を受け、適時に形成的評価を受ける。研修期間の最後に、特定の症例に関する発表を行う。また、リハビリテーションセラピストにも研修状況について聴取し、チーム医療の一員としての研修の進捗について形成的に評価する。
- 研修後の評価
研修終了後に EPOC2 に研修医が入力した自己評価を元に上級医が評価を入力する。提出されたレポートは指導医が確認し、内容によっては不備な点を指導し再提出を求める。
研修終了後に EPOC2 への入力を確認し、総括評価は研修センターと相談し、その指導に従う。

週間予定表

| | 午前 | 午後 | 夕方以降 |
|-----|-----------------------------|---------------------------------------|----------------------------|
| 月曜日 | 外来診療・カンファレンス | 外来診療・カンファレンス | リハ科全体勉強会 (月 1 回、18:00ー) |
| 火曜日 | 外来診療・他施設見学 (最終週) | 外来診療・装具診 | |
| 水曜日 | 外来診療・ミニレクチャー | 外来診療 | |
| 木曜日 | 外来診療・カンファレンス がん運動器ミーティング | 外来診療・ミニレクチャー ボツリヌス治療 がんリハミーティング | 抄読会 (17:30ー) 症例報告 (最終週) |
| 金曜日 | 外来診療・他施設見学 (最終週) | 外来診療・筋電図 がんリハミーティング | |
| 土曜日 | 外来診療・嚥下造影検査 | 休み | |